

## 湿地調査～湿地がもたらす自然の宝～

足立龍星・富永つゆか  
(兵庫県立香住高等学校海洋科学科)

### はじめに

ラムサール条約とは「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」のことである。水鳥の多くが国境に関係なく渡りをすることから国際的な取り組みが求められる。そこで、特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地およびそこに生息する動植物の保全を促し湿地の賢明な利用(Wish Use)を進めることを目的として1971年2月2日にイランのラムサール(カスピ海沿岸の町)で開催された「湿地および水鳥の保全のための国際会議」において1975年12月21日に発効された。多くの生物の生育の場であり、特に水鳥の生息地としては非常に重要である湿地や沼沢、干潟などの保全を行う。湿地は干拓、埋め立てなど開発の対象にされやすい。

私たちは年7回ほど、「高校生によるラムサール湿地の生物モニタリング調査」に参加している。日本のラムサール条約湿地は46箇所登録されていて、その1つに兵庫県では但馬北部にある円山川下流域・周辺水田が入っており、そこを活動場所としている。下流域では円山川だけでなく楽々浦湾があり、周辺水田では戸島湿地や桃島池などがこれにあたる。これらの場所は2012年にラムサール条約に登録されコウノトリの生息地として知られている。



### 調査方法

季節ごとに活動内容は違うが午前と午後に分かれ調査を行う。水温の高い春や夏では事前に仕掛けた定置網で生物の採取、決められた生物の調査を行う。また自由採取も設けてあり手網や投網、胴長などを用いて水田の中や湿地の溝などで生物を採取する。秋や冬では生物がより住みやすい環境を作るために草が伸びたところを開拓するビオトープ作りや野鳥観察などを行っている。1月にはこれらの活動をまとめた発表会もありとても充実した内容となっている。写真はその調査の風景でどの活動もその回ごとにいろいろなものが見れ、よい経験になっている。

### 結果

魚類だけでなく、虫類や鳥類、甲虫類や軟体動物も数多くの種類が生息していてまさに生物の宝庫である。汽水でもあることから、ボラやシジミも生息している。そして、汽水性の生物は比較的大きさが小さいのが多かったことから、この流域を育成の場として利用している。ほぼ1年を通してマハゼがいることからマハゼがここで生まれ生涯を終えることがわかり、サヨリやイサキもごく少数ではあるがこの流域を利用していることがわかった。

### まとめと考察

カワセミやツバメなどもこの湿地を利用していることから生物にとってとても住み心地のよい環境である。だが同時に、流れ込んできたヌートリアやブラックバスなど、招かれざる客も少しではあるが入ってきている。私たちにできることは、こういった生物や水質を調べ対処方やビオトープ作りなど生物の住みやすい環境を積極的に作っていくことが大事であると思う。この「高校生によるラムサール湿地生物モニタリング調査」もあと1年をきってしまった。今は後輩たちが私たちの後を引き継いで、他校と協力しあいこのような活動を継続させてくれると願っている。